

2 西部地域のまちづくりの方針

基本的考え方

御岳山周辺をはじめとする地域の自然や文化・歴史的資源に親しむ観光交流を促進するとともに、周辺の自然環境と調和したゆとりと潤いのあるまちづくりを進めます。

地域の特性

①地域の立地条件

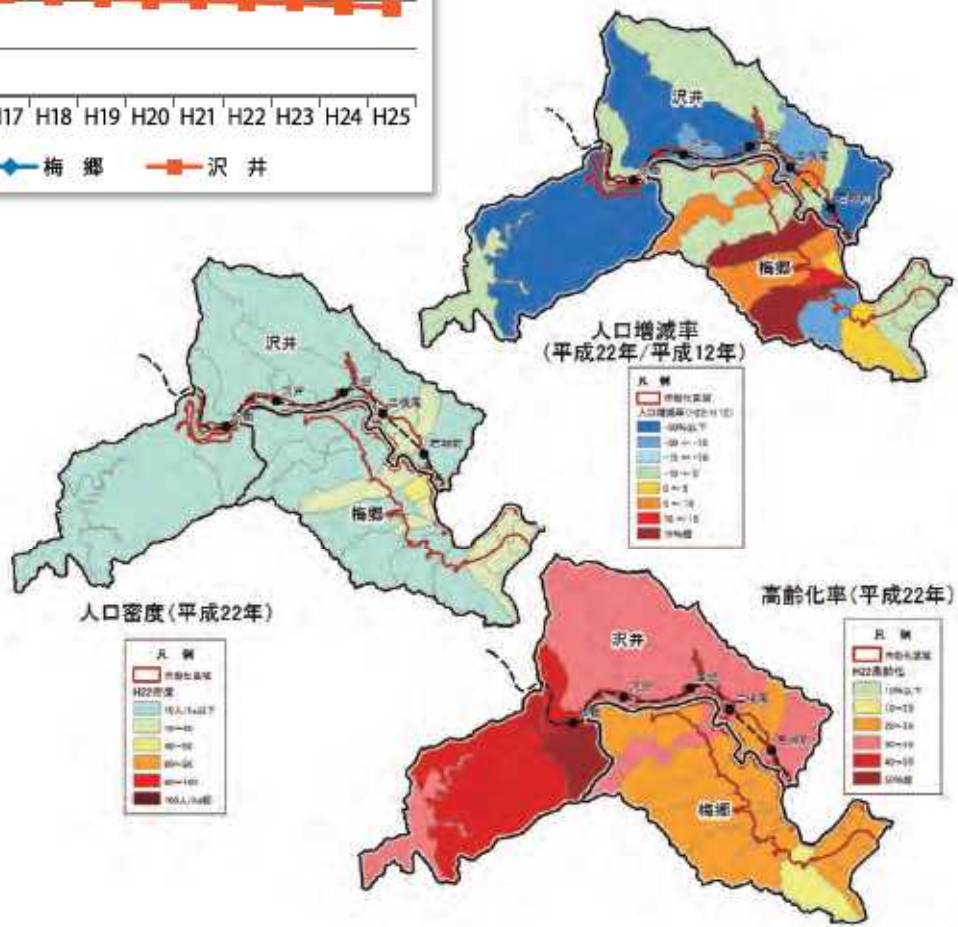
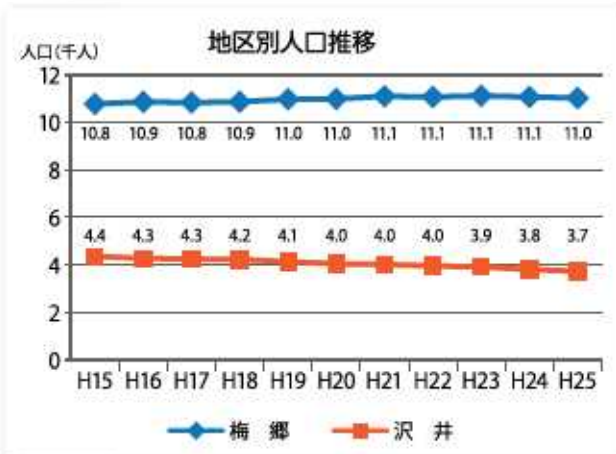
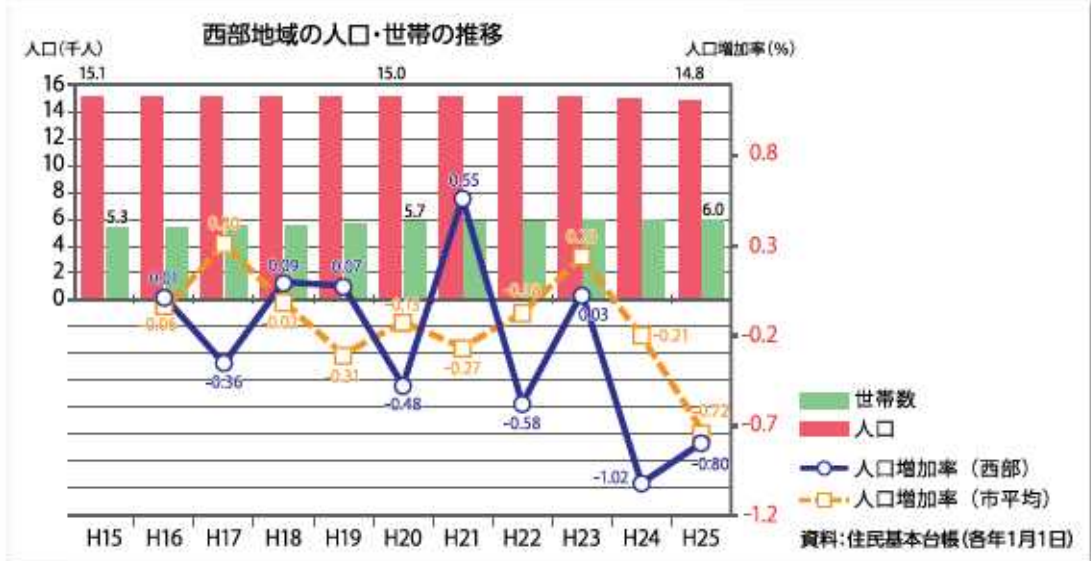
- 西部地域は、多摩川上流の山間地域で、御岳山をはじめとする山地や、多摩川などの豊かな自然は、本市の貴重な自然環境資源となっています。御岳山をはじめ西部は秩父多摩甲斐国立公園に指定されています。
- 市街地は主に多摩川の渓谷に沿って細長く形成され、JR青梅線、青梅街道、吉野街道という東西交通軸が通っています。
- 西部地域は、梅郷、沢井地区の2地区で構成されています。梅郷地区は吉野街道沿いの第五小学校周辺、沢井地区は青梅街道沿いの沢井駅近くに、公共施設などの集積したコミュニティの中心があります。

②人口特性等

- 平成25年1月1日現在の地域人口は14.8千人で、青梅市人口138.7千人の約10%となっています。
- 近年の人口動向は、地域全体では横ばいないし微減ですが、梅郷地区では横ばい傾向、沢井地区では減少傾向にあります。
- 市街地を構成する梅郷地区でも人口密度が40人/ha未満であり、また、沢井地区では高齢化も進展しています。

③土地利用等の概況

- 市街地は低層、低密度の住宅地が形成されており、商業施設は主に吉野街道などの幹線道路沿いに点在しています。
- 御岳山、多摩川などの自然資源のほか、梅の公園、吉川英治記念館、玉堂美術館などの観光施設が点在しています。



資料:国勢調査(総務省)

(1) 土地利用の方針

ア ゆとりと潤いのある土地利用の誘導

(7) 西部地域の基本的な土地利用(低密度住宅地)

多摩川の渓谷に沿って形成された山地の迫る市街地であり、周囲の自然環境と調和した、低層、低密度のゆとりと潤いのある住宅地の形成を目指します。また、幹線道路の沿道では、生活利便施設、観光施設などが住宅と適切に共存・調和した生活環境の形成を目指します。

狭^{せう}あい道路や行き止まり道路など道路基盤が不足している地区について、地区計画やミニ区画整理事業などの面的な整備を検討します。

また、市街地内に分布する生産緑地地区^{*}は、農産物などの生産活動を通じて、市街地における貴重な緑の空間として、維持・保全や制度の活用を図ります。

(イ) 複合市街地の形成(住居系複合市街地、住居・産業系複合市街地)

周辺の自然環境や居住環境を保全するため、建築物の高さの最高限度が定められていない地区についての、適正な高さの制限を検討します。

地域産業などが点在して立地する住居・産業系複合市街地については、居住環境との調和に配慮した、住む場と働く場が近接した複合市街地の形成を目指します。

また、工場などから住居系に土地利用転換された地区については、用途地域の変更等都市計画的な対応を検討します。

イ 自然環境の保全・活用

(7) 御岳山、高水山周辺の山地(自然環境を保全する地域)

御岳山、高水三山からなる秩父多摩甲斐国立公園内の山地は、その豊かな自然環境を積極的に保全します。

(イ) 梅郷地区の丘陵地、二俣尾(自然環境を保全する地域)

梅郷地区の丘陵地における尾根の山並みを保全するとともに、二俣尾から日向和田の多摩川左岸の尾根と斜面の区域については、多摩川と一体的な自然環境として保全に努めます。



豊かな自然環境

ウ 多摩川の水と緑の保全

多摩川の溪流と河岸の緑を保全します。

エ 御岳渓谷の保全と活用

秩父多摩甲斐国立公園随一の渓谷美や、カヌーを楽しむ場として、御岳渓谷の自然環境を保全・活用するとともに、多摩川南岸についても自然環境の保全に配慮しつつ、自然と親しめる空間として活用します。

オ 自然と文化を生かした観光交流拠点の形成

梅郷・沢井・御岳地区においては、多摩川の渓谷と清流、御岳山などの豊かな緑などの自然資源と、各種美術館などの文化的施設を生かした、回遊性のある観光交流拠点の形成を図ります。

(2) 交通体系の整備方針

ア 道路の整備

自然環境に囲まれた地域にふさわしい、景観に配慮した道路整備を促進していきます。

生活道路としても重要な役割を担う青梅街道や吉野街道などについては、観光車両や産業用大型車などに対応し、歩く人が安心して快適に利用できるよう歩行者空間の整備を進めます。

また、健康づくりのために歩く人や、自然や歴史・文化を訪ねて歩く人が多い市道を「青梅市健康と歴史・文化の路」と位置づけ、現況幅員の中で人と車の安全性の向上を目指した整備を推進します。

- 3・4・1号多摩川南岸線(吉野街道)
- 3・4・4号新青梅街道線(青梅街道)
- 主地45号奥多摩青梅線(吉野街道)
- 一般市道

イ 公共交通の充実

(7) JR青梅線の利便性の向上

老朽化した駅施設の改善やバリアフリー化により、使いやすい交通機関としての整備を要請します。

(イ) バス交通の充実

利用しやすく、かつ環境に配慮する交通手段として、バス路線の確保と充実を目指します。路線バスの利用促進を図るとともに、市民や交通事業者、行政などで構成する青梅市公共交通協議会において、利用者のニーズに応じた公共交通網の抜本的な見直しに取り組み、最適なバス路線の維持発展を進めていきます。

(3) 自然環境の保全・活用と都市環境形成の方針

ア 地域を囲む山地の保全

四季の変化を美しく表現する自然豊かな山並みは、市民をはじめ都民にとっても重要な資産であり、観光資源でもあります。これらの山地や丘陵地の自然資質を保全するとともに、尾根の地形や山並みを保全します。

また、山林の保全に向け、東京都と連携し、多摩産材の利用拡大を図るとともに、多摩の森林再生事業や花粉の少ない森づくり、企業の森などの事業を促進します。また、森林ボランティアの育成や森林保全に取り組むボランティアグループとの連携など、市民の手による森林整備を進めます。



企業の森

イ 多摩川の保全

水辺環境の保全に向けては、上流域の下水道整備や、市民やボランティアによる清掃活動を進めていきます。

秩父多摩甲斐国立公園の特別地域については、河川敷から崖線部分への拡大を促進していきます。

ウ 山地や河川の自然環境の活用

御岳山や高水山などの山地と多摩川の水辺は、保養や自然レクリエーションの場、登山やカヌー、ボルダリングなどのアウトドアスポーツの場として活用します。

(4) 景観形成の方針

ア 市民や観光客が魅力を感じられる景観づくり

観光の玄関口となる駅周辺や鉄道の車窓から、豊かな自然の魅力を感じられる景観づくりを進めます。

多摩川の上流部の美しい溪流と河岸の緑の景観を守るため、景観形成地区の指定を行います。また、地区内の建築物や樹木などについて、景観形成計画や景観形成基準を定めるとともに、適正な景観誘導を行います。

イ 地域の身近な景観の保全と活用

地域を特徴づける美しい石積みや歴史的な風情を感じさせる建物、山の辺の坂道から里を見渡す眺望など、長く地域で親しまれてきた美しい景観の保全に努めます。

また、美しく伸びやかな地域景観をつくり出している、地域に点在する梅や柚子などの樹園地の保全や活用を図ります。

ウ 地域との協働による魅力ある観光地景観の保全

地域の人々の日々の暮らしの姿が、来訪者をあたたかく迎えるような、地域が一体となった景観への取組を進めます。ゴミの持ち帰りや観光地を美しく保つためのモラルの向上、梅まつりや四季折々のイベントを通じて、地域住民と来訪者が一体となった魅力づくりに努めます。

(5) 河川・下水道等の整備方針

ア 河川の整備方針

(ア) 自然環境に配慮した河川の維持管理対策

多摩川をはじめ地域の河川については、自然環境や親水性に配慮しつつ、必要な治水対策や適切な維持管理を進めます。

(イ) 市民協働による水辺環境の保全

水辺環境の保全に向けては、多摩川をはじめ支流の平満川などで実施している市民や地区の住民などによるボランティア活動と連携し、清掃活動を進めていきます。

イ 下水道等の整備方針

御岳山をはじめ、未普及地域の公共下水道の整備を推進するとともに、集合処理に適さない地域については、国や東京都との調整を行い、市町村設置型の合併処理浄化槽^{*}の整備を進めます。

(6) 安全・安心のまちづくりの方針

ア 市街地に近接した急傾斜地などの土砂災害への対策の推進

多摩川沿いの丘陵地や山地などに指定されている、土砂災害警戒区域^{*}や土砂災害特別警戒区域^{*}については、警戒避難体制の整備を進めます。土砂災害特別警戒区域^{*}では、特定の開発行為や、建築物の構造などについて、技術基準にもとづく規制を行い、土砂災害の防止・軽減を図ります。また、多摩の森林再生事業や花粉の少ない森づくり、企業の森などの事業を促進し、良好な森林機能による土砂災害の防止を図ります。

イ 緊急輸送道路^{*}の確保等

緊急輸送道路^{*}に指定されている青梅街道の沿道建築物については、耐震診断・耐震改修などの支援を進めます。

ウ 地域自治組織と連携した防災体制の確立

自治会や自主防災組織と連携し、自主防災組織の強化や、災害時要援護者支援体制の充実を図るとともに、近隣住民の安否確認、避難場所・避難所などの周知徹底など、地域防災力の向上を図ります。

(7) 産業環境の整備方針

ア 自然と文化を生かした観光のまちづくり

梅郷・沢井・御岳地区においては、多摩川の渓谷と清流、御岳山などの豊かな緑を生かした自然体験型観光レクリエーションの普及や、既存美術館、博物館などと連携した、回遊性のある観光交流拠点の形成を図ります。

御岳山や高水山などの山地と多摩川の水辺は、市民のみならず来訪者などの保養や、つりなどの自然レクリエーションの場、登山やカヌー、ボルダリングなどのアウトドアスポーツの場として、安全に自然とふれあい親しめるよう、散策路やハイキングコース、登山道、休憩施設、駐車場などの整備・充実を進めます。また、御岳渓谷はカヌー拠点として全国的にも注目されており、今後も、アウトドアスポーツ振興の支援などにより交流人口の拡大を目指します。



自然とふれあい親しめる散策路

イ 梅の里の再生

市の代表的な観光地である吉野梅郷においては、ウメ輪紋ウイルスの防除を進めるとともに、市民、事業者との協働により、魅力ある梅の里としての再生や、農業・商業・観光の一体的な復興を図ります。また、梅の公園については、梅の里の再生・復興に合わせ、老朽化した施設整備や多様化する観光ニーズに対応した魅力ある公園づくりを推進します。



梅の公園

ウ 観光交通への対応

公共交通機関としてのJR青梅線や路線バスなどの利活用を高めていきます。

また、観光用の自動車交通に対しては、適切な駐車場の配置や案内表示の整備、公共交通機関の利便性を高めるなど、秩序ある観光交通の誘導を進めます。



柚木苑地

図4-2 西部地域のまちづくり方針図

